記　入　例

認知症ケア指導計画書

受講番号（　　）グループ（　　）受講者名

	指導課題 （課題全体の考察）	優先順位	指導目標 （１か月後の目標）	期間	具体的方法
認知症ケアの知識	●認知症ケアの理念や考え方の知識不足 ●本人の視点からみた尊厳の保持の重要性の理解 ●不適切なケアや回避方法の知識不足	1	●認知症ケアの理念や尊厳の保持の重要性を理解する。 ●不適切なケアやその回避方法（コミュニケーション）を学ぶ。	○月 ○日 ～ △月 △日	●参考となるテキストから該当箇所を読んで学んでもらう。 ●学んだ内容について、質問して理解を確認する。
アセスメント	●本人の気持ち（行動の理由など）を確認していない。 ●アセスメントの必要性の理解不足 ●本人の行動に関係している要因を分析していない。	2	●本人の気持ちを確認（推測）する。 ●本人の行動に関係する要因を分析することができる。 ●本人の行動の特徴（前後の状況を含む）を確認できる。	△月 △日 ～ □月 □日	●そのときの本人の気持ちを聞くように促す。 ●「ひもときシート」の項目等を示して、要因を分析する方法を伝える。 ●観察した経過を介護記録に残し、確認するように伝える。
介護方法	●本人の思いを受け止めた対応や適切なコミュニケーションができていない。 ●アセスメント結果に基づく介護を実践していない。 ●他職種との連携が不足している。 ●チームケアの理解が不足している。	3	●本人の思いを受け止めた対応や適切なコミュニケーションができる。 ●アセスメント結果に基づく介護を実践できる。 ●他職種との連携ができる。 ●チームケアを意識し報告･連絡･相談ができる。 ●介護評価を視野においた観察と記録ができる。	△月 △日 ～ □月 □日	●実際の現場でコミュニケーションの方法を見せ、フィードバックを行う。 ●コミュニケーションをとってもらい、フィードバックを行う。 ●アセスメントに基づく要因の改善を図ることを促す（環境、活動、生理的欲求など） ●機能訓練指導員に身体機能を評価してもらうように伝える。 ●送迎時に得た情報を生活相談員に報告するように伝える。 ●介護評価に必要な観察と記録について一緒に確認する。
介護評価	●介護の結果、本人の状態等に変化があったかを確認していない。	4	●介護の結果、本人の状態等に変化があったかを客観的に確認することができる。	◇月 ◇日 ～ ■月 ■日	●かかわりの前、途中、後の行動や発言の頻度、様子など変化の記録をするように伝える。 ●記録を基に、一緒に結果の評価を行う。

中央法規出版「認知症介護実践研修テキスト実践リーダー編」
P292 表12-6 、P306 表12-8